

マニフェストは、完成した行政計画を並べたものではありません。これまでの3期12年で実現したこと、道半ばにあること、今回の地震で新たに明らかになった課題を率直に示し、次の4年間に何を優先するかを市民の皆様と約束するものです。復旧・復興は今も進行中です。被災された方々との対話で寄せられた課題は、震災復興計画とこのマニフェストの実行過程に反映し、対応状況を継続して公表します。また、過去のマニフェストと総合計画に掲げた政策も、達成、継続、未達、見直しに分類し、説明責任を果たします。生命を守る。暮らしを支える。未来を拓く。市民の皆様との対話を力に、誰もが憧れる上質な生活都市くまもとの実現に向けて、責任を持って取り組みます。

3期12年の間に2度の震災を経験し、復旧を進めるなかで明らかになった弱点があります。住まい、避難所、道路、上下水道、防災拠点、情報伝達を強くする。災害時にも市役所の機能を止めない。そして、地域のつながりを防災の力に変えていく。これが「**強い熊本プロジェクト**」です。また、被災した方、子育てに悩む方、病気や障がいのある方、孤独や生活の困難を抱える方を、制度の隙間に置かない都市でなければなりません。一人でいたい自由は尊重する。けれど、誰も孤立させない。これが「**支え合う熊本プロジェクト**」です。復旧・復興と日々の暮らしを支えながら、熊本の未来への投資も止めません。世界とつながる教育を進め、文化と自然が身近にある暮らしを育てます。私が目指すのは、「**誰もが憧れる上質な生活都市くまもと**」です。災害に強いことは、上質な暮らしの大前提です。そして、互いに支え合い、安心して暮らせることが、その質を決めます。生命を守る。暮らしを支える。未来を拓く。この三つを一つの市政として進めます。

庁舎について

市役所は、単なる行政事務を行う建物ではありません。

大きな災害が起きた時、市民の生命を守り、救助を指揮し、避難所を動かし、水道や道路を復旧させ、全国からの応援を受け入れ、復旧・復興を動かす「司令塔」です。大規模災害時に市役所そのものが機能を失えば、市民の生命と暮らしを守る災害対応にも重大な支障が生じます。だから私は、熊本市の防災拠点をこのままにしておくという選択はしません。大規模災害が起きても、司令塔（市役所）が止まらない。災害対策本部が機能し続ける。この機能を確保することについては、一切妥協しません。一方で、そのために必要以上に大きな庁舎を造ったり、市民や将来世代に過大な負担を残したりする必要もありません。現在、耐震改修、減築、災害対策機能

の整備、新庁舎整備など、複数の選択肢について専門家による検証を進めています。必要な機能

は確実に守り、削ることのできる規模とコストは徹底して削ります。**目指すのは「立派な市役所」ではありません。どのような災害が起きても市民を守るために機能し続ける、強い防災拠点です。**

マニフェストは「強い熊本、支え合う熊本。」に向けた3つの柱で構成されています。

- ・ **生命を守る強い熊本プロジェクト**
- ・ **暮らしを支える支え合う熊本プロジェクト**
- ・ **未来を拓く重点政策**

災害・復興政策を貫く原則は、「制度に被災者を合わせるのではなく、被災者に制度を合わせる。待つ支援から、見つけて届ける支援へ。」です。発災前は住宅と都市を強くする。発災時は確実に生命を守る。避難中は健康と尊厳を守る。発災後は制度からこぼれる人を出さず、生活再建まで伴走します。

生命を守る。

暮らしを支える。

未来を拓く。

MANIFESTO

大西一史の政策

大西
ONISHI KAZUFUMI
一史

全マニフェスト(公約)150項目は
ホームページで詳しくご覧いただけます。

右記QRコードよりジャンプできます。
冊子をご希望の方は事務所までお問い合わせください。



《討議資料》

頒布責任者：田方誠 熊本市中央区本山町19-2

印刷所：株式会社アートプロセス 熊本市中央区春竹町春竹495

ウラ面へ
続く▶

大西一史の約束

150の公約のうち 20項目を紹介

※各項目に付いている「番号」はマニフェスト150項目に
実際に付いている「番号」です。



生命を守る強い熊本プロジェクト

- 1/150 今後の災害に強い強靱な都市基盤の整備は急務です。これまでに蓄えた液状化被害対策や浸水被害対策の知見を活かし、自然災害に強いまちづくりを強力に推進します。【任期中実現】
- 2/150 慢性的な課題である主要幹線道路のピンポイント渋滞対策やボトルネック解消を強力に進めます。また、発災時には緊急車両の優先通行や広域からの物資輸送・避難誘導をスムーズに行える防災交通システムの構築を目指します。【任期中実現】
- 4/150 大規模地震による電柱倒壊と電線断線を防ぎ、救急・救援活動のための緊急輸送道路や通学路を確実に確保するため、小中学校周辺や主要幹線の無電柱化を進めます。【任期中実現】
- 8/150 上下水道管路、浄水・配水施設、道路、橋梁、法面、学校、保育所、福祉施設、市営住宅、文化施設の耐震化・老朽化対策を進めます。【任期中実現】
- 9/150 全市立小中学校の体育館等について、空調設備（エアコン）は令和9年度末までの整備完了を目標に整備します。【任期中実現】
- 10/150 避難所開設時から清潔なトイレ、温かく栄養のある食事、ベッド、間仕切りを確保し、遅くとも発災後48時間以内の配備を熊本市独自の運用目標として、対象避難所、想定避難者数、備蓄・輸送、協力事業者、優先順位を定めます。【任期中実現】
- 14/150 指定避難所や大規模避難施設に、太陽光発電、蓄電池、非常用LPガス設備等を導入し、大規模停電時にも電力・エネルギーを確保できる自立型防災拠点を分散配置します。【任期中実現】

暮らしを支える支え合う熊本プロジェクト

- 28/150 こども医療費助成、多子世帯への保育料等支援、子育て応援ギフト等を充実します。学校給食費については、任期中の中学校までの完全無償化を目指します。【継続拡充】
- 30/150 子育てと仕事を両立させる社会の実現のため、テレワークや短時間勤務など多様な働き方を先進的に導入している「子育て支援優良企業」を広く周知し、社会全体で子育てを支える機運醸成を図ります。【継続拡充】
- 43/150 誰もが移動しやすいまちづくりを進めるため、バリアフリーマスタープランを策定し、中心市街地等の促進地区において、ビルと歩道の段差を解消するなど、円滑な移動を実現するとともに、公共交通や市管理施設のバリアフリー化を進めます。【任期中実現】

未来を拓く重点政策

- 58/150 国内初の都市圏のあらゆる交通モードを網羅した運輸連合である「熊本交通機構（くまもとモビリティ）」を中心に、バス・市電等の運転士の賃金等の処遇改善と採用・定着を支援し、運転士不足による減便を食い止め、市民の足となる路線の維持・充実と利便性向上につなげます。【任期中実現】
- 59/150 熊本市中心部から高速道路インターチェンジまでを約10分、熊本空港までを約20分で結ぶ、都市高速道路ネットワーク「10分・20分構想」を強力に推進します。【任期中実現】
- 60/150 市電を含む鉄軌道を基軸交通として位置づけ、将来にわたり持続可能な組織を目指すため上下分離等の検討を進めます。市民病院への延伸をはじめ、BRTの活用も含めた南熊本、田崎、空港・益城方面への延伸構想に取り組み、基幹公共交通ネットワークの構築を進めます。【任期中実現】
- 61/150 熊本都市圏の交通結節点において、JR、市電、電鉄、バス、シェアサイクル等の結節機能を強化し、周辺のまちづくりと一体となって利便性を高めます。阿蘇くまもと空港アクセス鉄道の整備を見据え、JR豊肥本線を熊本都市圏東部の基幹交通軸として抜本的に強化します。【任期中実現】
- 64/150 公共交通の速達性と定時性を抜本的に高め、道路を拡幅することなく既存の道路空間を最大限に活用するため、市電の軌道敷をバスやBRTも走行できる公共交通専用走行空間として活用する検討に着手します。【任期中実現】
- 92/150 市立の全小中学校に常勤のALTを配置し、英語教育・多文化理解教育を抜本的に強化します。併せて、全校で海外との姉妹校協定を締結し、児童生徒や教職員の国際交流事業を展開します。【任期中実現】
- 98/150 学校トイレの洋式化、防災面も含めた校舎・体育館の機能強化、給食調理室の改善など、ニーズに対応した学校施設の整備に引き続き取り組みます。【継続拡充】
- 113/150 熊本地域の貴重な財産である、良質で豊富な地下水を次世代に確実に継承するために、熊本市地下水保全条例の見直しを行うなど地下水保全対策に取り組みます。【継続拡充】
- 120/150 道路・公園・学校などの公共施設における樹木について、定期的な点検を実施し適正な管理を行うことで、安全で快適な緑の環境を確保するとともに、伐採した樹木の有効活用を図ることで、森の都として誇れる魅力あるまちづくりを推進します。【継続拡充】
- 144/150 安全で持続可能な上下水道を将来にわたって守るため、施設や管路の耐震化・老朽化対策など、必要な将来投資を着実に進めます。料金のあり方については、第三者による客観的な検証を行い、将来の収支見通しと必要な投資額を公開した上で、市民への丁寧な説明を行います。【継続拡充】

大西一史 プロフィール

1967年熊本市生まれ。白川小・白川中・熊本北高・日本大学卒、九州大学大学院修士課程修了、博士後期課程単位修得退学。
商社勤務、内閣官房副長官秘書、熊本県議5期を経て、2014年熊本市長就任。現在3期目。九州市長会会長、指定都市市長会副会長、全国市長会・防災対策特別委員長。